

講義Ⅳ

日常生活支援住居施設の共通評価項目について①

評価者フォローアップ研修(共通コース)

令和7年4月開催

東京都福祉サービス評価推進機構

講義内容

- 1 日常生活支援住居施設の共通評価項目の策定について
- 2 カテゴリー6について
- 3 利用者調査について

1 日常生活支援住居施設 の共通評価項目の策定 について

(1)策定の背景

平成30
年6月

＜生活保護法改正＞

日常生活支援住居施設を生活保護法に規定

- ・社会福祉法で定める無料低額宿泊所のうち、厚生労働省令で定める要件に該当する施設として都道府県、指定都市、中核市が認定した施設
- ・東京都、八王子市が条例で基準を定めて承認
(都内の日常生活支援住居施設は令和6年10月1日現在55施設)

令和2年
4月

無料低額宿泊所の設備及び運営に関する基準施行

日常生活支援住居施設に関する厚生労働省令で定める要件等を定める省令施行

令和3年
3月

「日常生活支援住居施設の日常生活上の支援及び職員養成研修の在り方に関する調査研究事業報告書」の第2章が、日常生活支援住居施設で行う支援のガイドラインとしてまとめられた

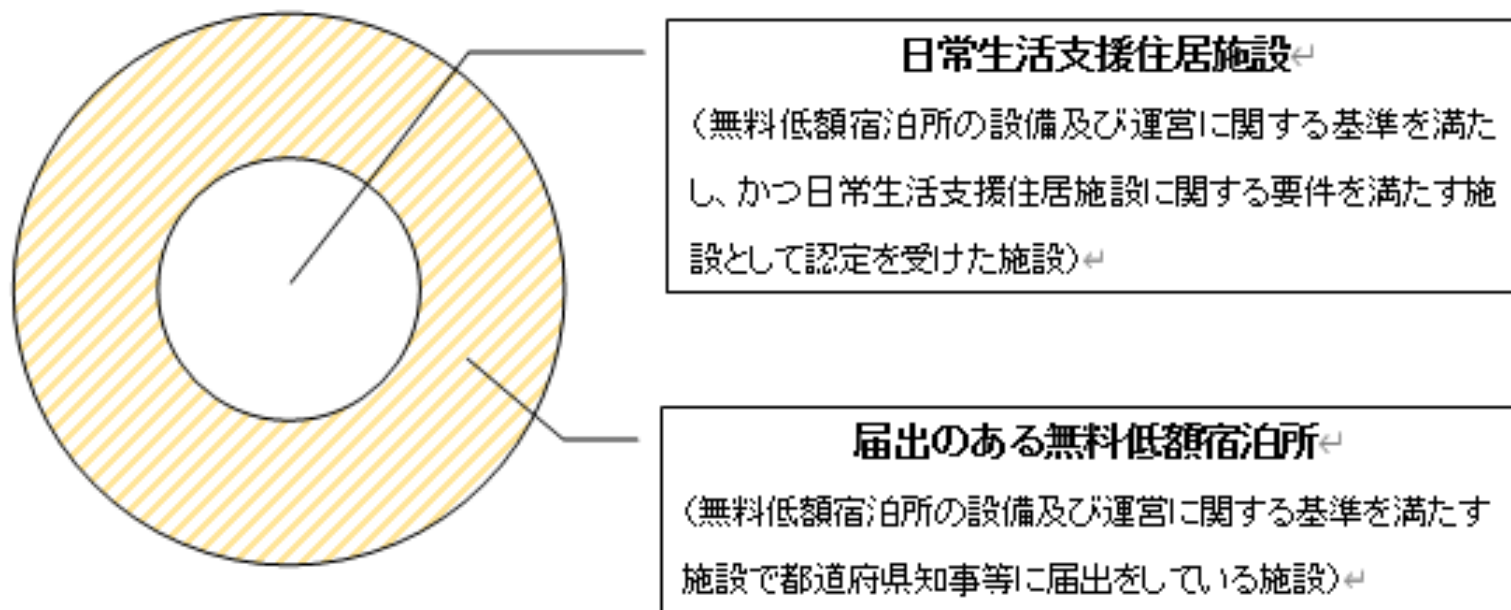
令和3年
10月

都、八王子市が指導検査を開始

・無料低額宿泊所及び日常生活支援住居施設の指導検査基準に基づき指導検査を実施

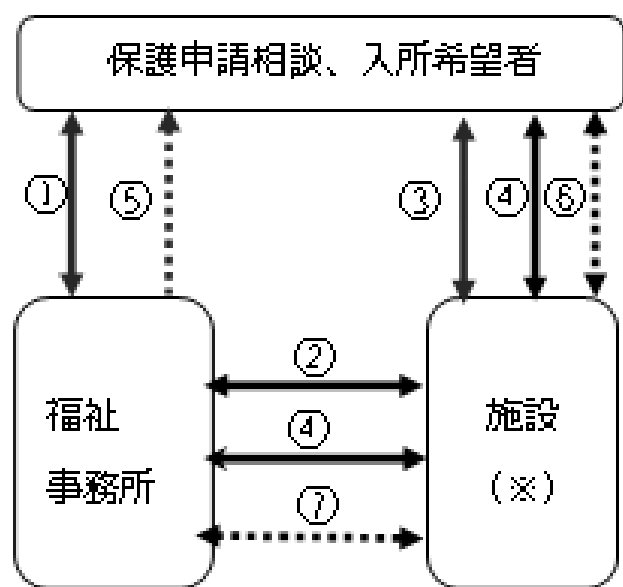
(2) 日常生活支援住居施設とは

ア 日常生活支援住居施設と無料低額宿泊所等との 相関イメージ



(図1) 東京都福祉サービス評価推進機構作成

イ 日常生活支援住居施設利用の流れと 利用料等の支払いのイメージ



(※)「施設」は「日常生活支援住居施設」の略

【利用の流れ】 ※一般的なケース

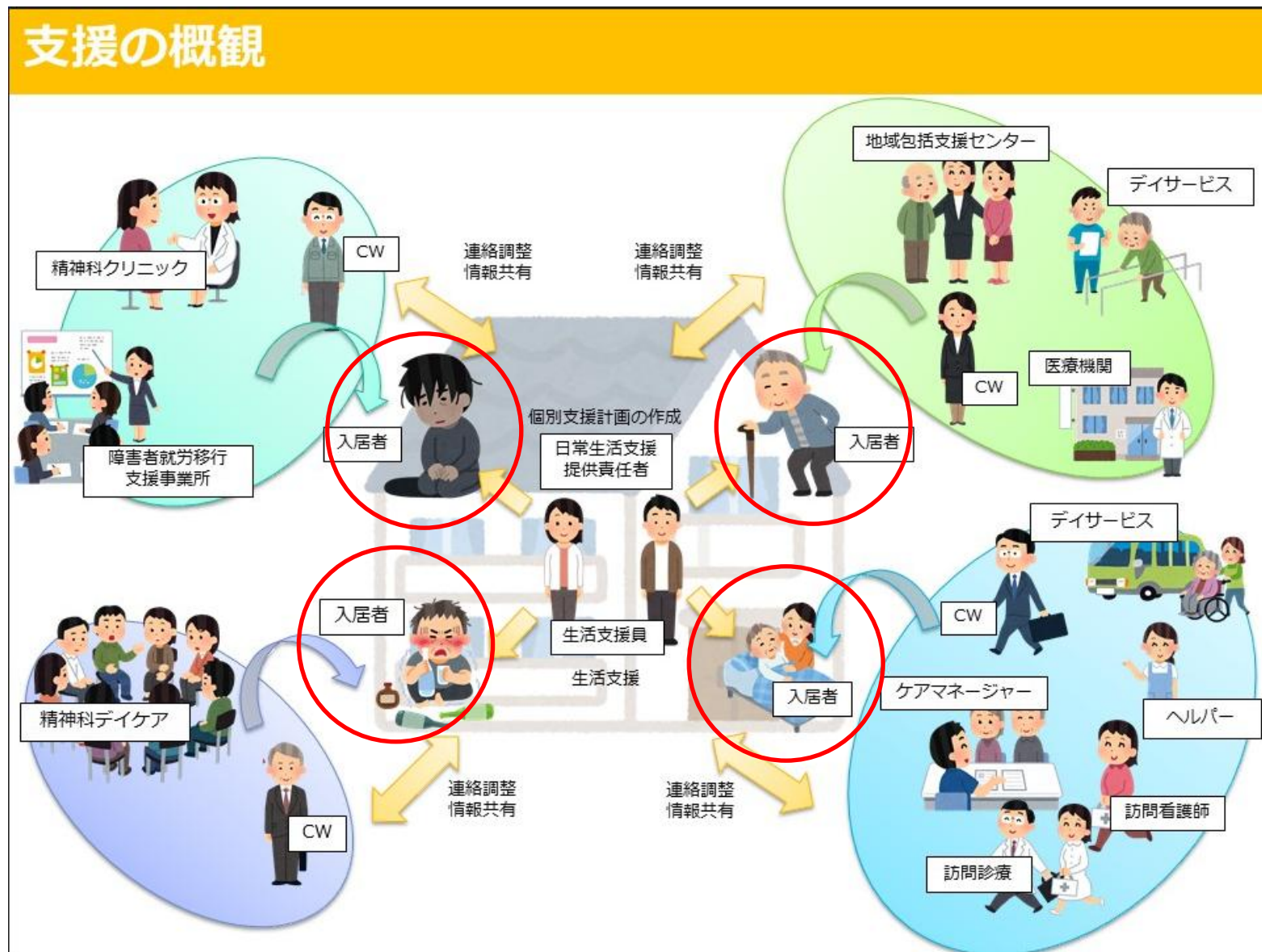
- ①住居のない者から保護の相談・申請、既に無料低額宿泊所に入居している者からの保護相談・申請
 - ・本人の状況把握（居宅生活の可否、支援方法の検討）
 - ・福祉事務所が入所希望者に施設情報を提供・利用意向の確認
- ②福祉事務所から施設へ委託依頼、施設から受託可否を回答
- ③施設と入所希望者間で契約の締結（福祉事務所は本人の契約を支援）
- ④施設は、個別支援計画を作成（利用者と福祉事務所と協議）し、利用者に交付及び福祉事務所に写しを交付

【利用料等の支払い】

- ⑤福祉事務所が利用者に保護費を支給
- ⑥施設が利用者に利用料を請求し、利用者から利用料を受領後、領収書を発行
- ⑦施設が福祉事務所へ委託事務費を請求し、福祉事務所から施設に委託事務費を支払

(図2) 東京福祉サービス評価推進機構作成

ウ 支援のイメージ



(3)検討の経過

保護小ワーキング	<ul style="list-style-type: none">・有識者、事業者代表、評価機関代表、行政機関・2回開催(7月、8月) 共通評価項目の検討、項目案の取りまとめを行った
保護ワーキング	<ul style="list-style-type: none">・10月開催・小ワーキングで取りまとめた共通評価項目案について検討、意見の取りまとめを行った
評価・手法ワーキング	<ul style="list-style-type: none">・11月開催・保護ワーキングで取りまとめた共通評価項目案について検討、意見の取りまとめを行った
評価・研究委員会	<ul style="list-style-type: none">・12月開催・評価・手法ワーキングで取りまとめた共通評価項目案について承認を得た

(4)策定にあたっての観点

①	無料低額宿泊所の設備及び運営に関する基準、日常生活支援住居施設に関する厚生労働省令で定める要件等を定める省令、支援のガイドラインも踏まえて検討
②	利用者が生活保護受給者であることから、利用者像が似ている保護3サービスの共通評価項目を参考としつつ、施設の役割、利用者の状況、都内事業者における支援の実態を踏まえた評価項目を検討
③	評価・研究委員会、ワーキング委員の意見を踏まえて検討

(5)共通評価項目の検討の範囲等

検討した共通評価項目

- ・組織マネジメント項目(カテゴリー1～5及び7)
- ・サービス項目(カテゴリー6)
- ・利用者調査

(6)主な検討の概要

ア 事業評価共通評価項目について

組織マネジメント (カテゴリー1～5及び7)	<ul style="list-style-type: none">・組織マネジメントに関する、事業所の基本方針や計画の策定・実行、経営における社会的責任、リスクマネジメント、人材育成等の項目については、62サービス全てに共通 ⇒これらの項目を評価することが、日常生活支援住居施設のサービスの向上には重要・<u>組織マネジメント項目すべてを取り込んで</u>評価を実施
サービス提供のプロセス(カテゴリー6)	<ul style="list-style-type: none">・6つのサブカテゴリーから評価する構成(他サービスと同様)
利用者調査	<ul style="list-style-type: none">・「サービスの提供」、「安心・快適性」、「利用者個人の尊重」、「不満・要望への対応」の4つのフレーム構成(他サービスと同様)

イ 評価手法について

評価の方法	組織マネジメント項目とサービス項目をすべて取り込んだ 標準の評価手法により実施 する	
評価実施に係る人数	3名以上 の評価者が一貫して行う	
利用者調査	調査対象	利用者本人(※) (※)緊急的・臨時的な利用で利用契約を交わしていない人を除く
	調査方法	アンケート方式又は聞き取り方式 により実施
任意に実施する 共通評価項目 (組織マネジメント 項目の一部)	なし	

2 カテゴリー6について

(1) カテゴリー6の構成

【カテゴリー6】

6-1	サービス情報の提供
6-2	サービスの開始・終了時の対応
6-3	個別状況に応じた計画策定・記録
6-4	サービスの実施
6-5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重
6-6	事業所業務の標準化

【サブカテゴリー4】

6-4-1	個別支援計画に基づく自立(自律)生活を送るための支援
6-4-2	利用者一人ひとりの状況に合わせた生活の支援
6-4-3	利用者の健康を維持できるような支援
6-4-4	利用者の生活が快適になるような支援
6-4-5	利用者の意向を尊重しつつ家族等と協力した利用者への支援
6-4-6	地域と連携した利用者の生活の幅を広げる取組みの実施

カテゴリー 6			
	サブカテゴリー 1		サービス情報の提供
	評価項目		1
		標準項目	4
	サブカテゴリー 2		サービスの開始・終了時の対応
	評価項目		2
		標準項目	7
	サブカテゴリー 3		個別状況に応じた計画策定・記録
	評価項目		4
		標準項目	11
	サブカテゴリー 4		サービスの実施
	評価項目		6
		標準項目	21
	サブカテゴリー 5		プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重
	評価項目		2
		標準項目	5
	サブカテゴリー 6		事業所業務の標準化
	評価項目		2
		標準項目	5
	合計	評価項目	17
		標準項目	53

(3)日常生活支援住居施設独自の標準項目等 について

ア 独自の標準項目①

6-4-1-3	利用者が望む生活像に基づき、日常生活において利用者自身が選択、判断できるよう支援を行っている
6-4-2-1	継続的な見守り体制により、利用者の心身の状況等を把握し支援している

- ・6-4-1-3 利用者の中には、自分で考えたり決めたりすることが困難な場合があること、支援する側が本人にとって望ましいと考えて誘導する形にならないよう、利用者自身の判断・決定を支援しているかを評価する項目
- ・6-4-2-1 利用者が安定した生活を送るための支援という観点から、手厚い見守りと状況把握が必要であるとする省令、ガイドラインを踏まえた項目

ア 独自の標準項目①

6-4-2-2	利用者一人ひとりの状況、課題に応じて、就労支援、手続き等の同行支援、生活知識・家事等必要な支援を行っている
6-4-4-3	利用者一人ひとりの意向をもとに、その人らしさを引き出せる機会や場を用意している

・6-4-2-2 入浴、食事、服薬、金銭管理を除く日常生活支援住居施設が提供する日常生活上の支援(買い物や手続き等への同行支援や、生活に必要な知識や家事に関する支援等)について評価する項目

・6-4-4-3 入居者が生きがいをもって生活できるようにするための機会を適切に提供しなければならないとする省令を踏まえ、自己有用感や自己肯定感、生きがいを感じられるような場や機会の提供など、利用者の意向・自主性を尊重することについて、**事業所としての姿勢、独自の取り組みを評価**する項目

イ 利用者の希望と意向を尊重した支援についての項目

6-3-2-1	計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
6-4-1-3	利用者が望む生活像に基づき、日常生活において利用者自身が選択、判断できるよう支援を行っている
6-4-1-5	利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行のための支援を行っている
6-4-4-3	利用者一人ひとりの意向をもとに、その人らしさを引き出せる機会や場を用意している

・支援提供の全プロセスにおいて、利用者の意向は十分に尊重されなければならないが、利用者の意向が真のニーズとは限らない場合もあり、単に利用者の意向に沿うことが望ましい支援とは限らない場合もある。一方で、自分自身の意向を表出できない利用者や、支援に対して拒否的で関係性を築きにくい利用者もいるため、支援者の判断を押し付けないことも大切である。利用者のこれまでの生活や人間関係などを含んだ背景を踏まえ、**本人の思いや意向を汲み取り、本人の納得のいく目標となるように、合意形成を図っていくことが求められることから、そのプロセスを含めて評価する項目**

ウ 実施している事業所のみを評価する項目

6-4-2-4	【利用者の金銭管理を行うことがある事業所のみ】 日常の金銭管理については、必要に応じて金銭感覚の獲得や自己管理ができるよう支援している
6-4-2-5	【食事の提供をしている事業所のみ】 食事の提供は、利用者の状況や嗜好に応じた取り組みをしている
6-4-3-3	【利用者の薬を預かることのある事業所のみ】 服薬の誤りがないようチェック体制の強化などしくみを整えている

- ・6-4-2-4、6-4-2-5 省令等において、金銭管理支援、食事提供の実施は必須ではなく、省令では実施する場合は別途契約書を交わすこととされており、**利用者と別途契約を締結し、金銭管理や食事を提供している事業所のみを対象とした評価項目**
- ・6-4-3-3 利用者の薬を事業所で預かり保管している事業所のみを対象とした評価項目

以上で 講義Ⅳ-①は終了です。
講義Ⅳ-②に進んで下さい。

